

分野	No	科目名	曜日時限	学科	担当者	授業の主旨(概要)
人文学部	1	情報サービス論	水 9:30-11:00		柊 和佑	司書資格課程の科目として、図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育・発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。また、現代の情報提供サービスを行う企業と図書館を比べ、その類似点への理解を進める。最終的にはサービスに応じたキュレーション能力の獲得を目指す。講義は『情報社会と図書館の情報サービス』『レファレンスサービスの理論と実際』『キュレーションの理論と方法』の3つのカテゴリに分かれている。
	2	グローバルSDGs 人文学	月 15:20-16:50	本内 直樹、河村 陽介、塩澤 正 小森早江子、岡本 聰、王 昊凡 安保 夏絵、川上 文人、一谷 和郎 三浦 太一、玉田 敦子、水村さおり		人文学部5学科等の専任教員や外部からの講師によるオムニバス形式で行う。海外での諸活動経験者からは、発展途上国の貧困・飢餓・衛生環境・教育環境の改善などに対する日本の活動の意義を学ぶ。国際的共同研究の成果報告からは、国際交流の場だからこそ必要となる日本文化の知識や、海外から見た日本文化の見え方などを学ぶ。また、文化的差異の体験談、価値観や慣習の違いに由来するさまざまな「リスク」に対する備えの必要性などを学ぶ。異文化適応や異文化理解の分野の専門家からは、近年の研究成果についての見解を身につける。「語学研修」などで実際に海外留学する際に備える。さらに、国外に目を向けるばかりではなく、国内の教育現場の報告を通して、諸外国からの滞日児童・生徒が日本国内で直面している問題などについても学び、その解決に向けての方策などを考える。受講後には、自らの価値観・世界観の中心性・絶対性を相対化することの意義に気づき、SDGs達成に資する精神を身につけていることが期待される。
日本文化	3	日本語教授法A	火 15:20-16:50	日本語日本文化	小森 早江子	日本語を母語としない人に「外国语として日本語を教える」とはどういうことを学び、日本語教授法の実際的な技能を習得する。様々な視点から日本語に関する価値観を理解し、社会における諸問題の解決、改善に貢献できるように、多様な人々と協働し、学び続けることができる。
	4	古典文学講義A	火 13:35-15:05	日本語日本文化	岡本 聰	上田秋成の『雨月物語』は、諸国際の奇譚的な要素と、百物語などの怪奇性を併せ持つ初期読本の代表的な作品である。物語としての面白さを読解するとともに、影印本を用い、くずし字の版本を読解する事に習熟する事目標とする。
英語英米文化	5	言語学入門A	金 9:30~11:00	英語英米文化	田中 祐太	日本語と英語の具体例を通して、言語学・英語学の下位領域について学び、各領域における問題設定の仕方やその解決策を学びながら、言語学・英語学に関する基礎的な知識や考え方を身につける。これに加えて、2つの言語に関する言語事実を論理的に考察・分析する力も身につける。
	6	文化間 コミュニケーション論A	月 9:30~11:00	英語英米文化	塩澤 正	文化の多様性及び文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。文化間コミュニケーションに関する基礎「知識」を増やし、文化相対主義にもとづく、寛容的・非差別的な「態度」を身に付け、積極的に異文化を持つ人間と「行動」することができるため、基礎能力が身につける。英米科の学生の受講を前提としていため、英語の文化圏の歴史、社会、文化との比較や英語学習との関連で学習する。
	7	英語の歴史A	月 15:20-16:50	英語英米文化	柳 朋宏	世界で話されている英語の多様性を、英語の通時的変遷という観点から考察し、各地で用いられている英語変種に対する理解を深める科目である。歴史的視点から「標準語」が幻想であることを知り、国際的な視野から英語の多様性に対する寛容な態度を養う。
	8	応用言語学A	金 11:15-12:45	英語英米文化	三上 仁志	学生は、人が母語や外国语を身に付ける・運用する過程について学ぶ。授業では、学生自身の英語学習に役立つ知識を獲得するために、特に教育的な示唆に富んだ内容を重点的に学習し(=授業内容を傾聴・受信し)、自らの言語学習について深く知る(=自己理解する)。
	9	グローバル英語A	火 13:35-15:05	英語英米文化	塩澤 正	「国際英語論」の理念(多様な英語を認識し、自分の日本人としての英語も肯定的にとらえて積極的に使う)と世界の様々な英語に触れ、その特徴や社会言語学的側面も学ぶことを目的とする。最終目標は世界の多様な英語に接しながら、国際共通語としての自分の英語を肯定し国際的に汎用性のある英語を習得することである。自分の英語を肯定するという意味で、英語のアウトプットの訓練も行う。
	10	英語で学ぶ 言語習得論A	金 13:35-15:05	英語英米文化	D.R.ロレンス	This is an intensive lecture course, conducted entirely in English exactly as a similar course would be conducted at an English-speaking university. The course will center around lectures, and students will be expected to read in preparation for class, participate in discussions, write short papers and take tests in English.
	11	英米の歴史と社会A	木 15:20-16:50	英語英米文化	本内 直樹	春学期では、英米諸国の映画を素材に、中世から近代までのイギリス社会の歴史を、またアメリカの歴史も概観していく。各時代の社会・経済・政治上の出来事とその意味、また人々の生活といった細部に着目しつつも、それらを大きな歴史的変化のなかで位置づけていくことも忘れない。
	12	社会学概論	月 11:15-12:45	メディア情報社会	王 昊凡	この授業では「食」で学ぶ社会学入門と題し、身近な社会現象としての「食」を通して、社会学の基礎的な考え方を身につけます。家中やコンビニ、スーパー・マーケットや飲食店で出会いそうな「食べ物」や「食べる」という行為を出発点に、社会学の概念を理解したり、先人によって蓄積されてきた社会学の研究成果を学んでいきます。同時に、時事問題を積極的に取り上げ、社会に対する関心を高めています。
	13	心理学概論	金 11:15-12:45	メディア情報社会	胡 琴菊	心理学が科学として独立してから今日まで、その対象としての心理現象を実証科学的に探求する種々の試みがなされてきた。本科目の授業では、普段私たちが感じていること、見ていること、行っていることが科学的にどのように解明されてきたのかについて解説する。認知心理学、感情心理学、行動心理学、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学等にわたる心理学全般の基礎的な知識を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深める。
	14	グローバル文化論	火 9:30~11:00	メディア情報社会	石川 達哉	日本のデジタルゲーム産業の歴史を題材として、ローカル文化(地域・企業文化・日本の遊びの伝統)がグローバル文化(国際市場・世界的メディア環境)とどのように相互作用しながら発展してきたかを考察する。『日本デジタルゲーム産業史』(小山友介)を基軸としつつ、技術・産業構造・表現メディア・ユーザー文化・国際比較といった多層の視点から、メディア文化の形成と変容を包括的に学ぶ。
メディア情報社会 コミュニケーション	15	メディア論	月 9:30~11:00	メディア情報社会	王 昊凡	講義では、身近な例としての「食」を題材にしつつ、メディアやコンテンツがどのように社会状況を変えてきたのか、社会状況をどのように反映したのか、その変遷を辿りつつ、注目すべきポイントを解説していきます。前半では人間が作るモノと人間・社会の変化がリンクする事例として、家族や家庭料理、地域や都市に関するものを取り上げます。また、海外における日本文化の消費を題材に、グローバル化のなかのメディアについて議論を行います。後半では、メディア論の理論(基礎的なものを取り上げる)について、身近な事例をあげつつ解説を行う予定です。
	16	メディア文化史	水 11:15-12:45	メディア情報社会	小川 順子	さまざまなメディアと文化事象の変化をたどることで、社会のおおまかな流れを把握し、あらゆる事象を大きな時の流れの中に位置づけて考える姿勢を身につける。
	17	メディアとアート	木 13:35-15:05	メディア情報社会	河村 陽介	美術表現におけるメディア(媒体ないしは素材・技法)に注目し、その特質、および表現における影響力について観察、分析する。「伝達」「表出」といった目的に応じての使用だけでなく、メディア(媒体ないしは素材・技法)そのものの特質が、「伝達」「表出」の内容やかたちに影響を及ぼすことを学修していく。
	18	社会言語学概論	木 13:35-15:05	メディア情報社会	柳谷 啓子	ことはと社会の関係を扱う「社会言語学」の入門的授業。実際の社会の中でのことばの使われ方を観察してみると、同じ一つのことを言うにも、話し手の年齢・性別・出身地・職業などによって様々な言い方があることに気付きます。社会全体から見ると、それだけたくさんのことば(話し方)のレパートリーがあるわけです。また同じ一人の人が話すとして、誰と、どういう状況のもとで、何について、どういう目的で話すのかなど、様々な外的要因を総合的に判断して、いろいろな話し方の中からその時々にふさわしい話し方を選んでいることがあります。つまり個人個人にもそれぞれ話し方のレパートリーがあるわけです。今、仮に(年齢・性別など)話し手の属性や(話し相手・状況など)場面の属性を社会的要因とよぶならば、この「様々な社会的要因の組合せ」と「様々な話し方」の間の対応関係を研究することが、社会言語学の関心事の一つです。
	19	メディアの法と倫理	月 11:15-12:45	メディア情報社会	中山 顕	インターネット等の普及により、これまで専らマスメディアに依存してきた情報は、個人によるアクセスや、全世界に向けた発信が容易にできるようになるなど、近年急速に変化を遂げている。そのような情報化が高度に進む今日の社会ではあるが、権利侵害等に対する法的責任のあり方は、従来の表現行為におけるそれと基本的に変わらない。ネット上で他人の悪口や悪評を流布すれば名誉毀損で訴えられる、デジタル技術の発達で他人の著作物を容易にコピーできるようになつたことは著作権侵害のおそれをかかえて高めていきます。また近年では、街頭やネット上でヘイストピーチがひきおこす社会的分断への対応も求められよう。講義ではまず、そのような基本的な課題について学習し、そのうえで、現代のメディアに関する諸問題を扱う。例えば、近年注目されている「忘れられる権利」やAI規制法の課題、民主社会との関係においては公文書管理や放送メディアのあり方、インターネット選挙運動の課題、または戦争とメディアの関係等、今後も一層、多様化・高速化・デジタル化が進むであろうメディアの直面する様々な課題について、そこでの問題が含まれ、私たちがそれらにどう向きあうべきか、講義から得られる示唆をきっかけに考えを深めてもらいたい。
	20	メディアと観光	金 9:30~11:00	メディア情報社会	石川 達哉	本授業では、観光を「場所や体験の魅力を、メディアを通して表現し、伝える行為」として捉え、そのデザインのあり方を学ぶ。観光広告やプロモーション事例、観光文化・観光学の基礎的な考え方を手がかりに、多様な表現手法を実践的に扱う。制作と講評を繰り返しながら、対象の魅力をどのように編集し、効果的に伝えるかを考えることを目的とする。
	21	メディアと地域	木 11:15-12:45	メディア情報社会	三摩 真己	全国ネット、ブロック、県域といった放送エリアの違いを踏まえたうえで、地域放送の変遷と情報番組、地域放送ドラマなど新たな動きを実際の映像を視聴しながら解説する。特によりきめ細かな情報が求められる災害情報や選挙情報などテレビメディアがどのように伝えようとしているのかを詳しく見てゆくことで、テレビがどのように生き残りを図ろうとしているのかを理解する。
	22	地域情報 アーカイブ論	火 9:30~11:00	メディア情報社会	柊 和佑	司書課程科目として、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。なお、講義は『コンピュータの構成要素』『コンピュータの現在』『文化情報とデジタルアーカイブ』の3つのカテゴリに分かれており、カテゴリ毎にはレポートが出題される。
	23	Webプログラミング	水 13:35-15:05	メディア情報社会	石川 達哉	Webページで使われている各種技術を紹介しつつ、実際に使うことでその特徴を捉える。また、実際に各自のコンピュータにHTMLとCSS、JavaScriptを使ってWebサイトを構築していく。なお、課題は中盤以降毎回出題される。課題のためにはコンピュータは必須である。各自持参すること。
	24	行動科学A	火 11:15-12:45	メディア情報社会	胡 琴菊	人はなぜ、どのような行動をするのか。行動科学(behavioral science)は、人間のさまざまな行動に對して観察や実験などによって、科学的に研究し、その法則性を解明しようとする学問。その中には、心理学や社会学、精神医学、経済学、情報工学などが含まれている。特に、心理学は行動を扱う分野として行動科学の中心に位置している。本講義では、個人行動、対人行動、集団行動、社会行動から身近な事例をまじながら取り上げて解説する。人間の日常生活や教育・臨床場面における行動の理解、社会問題の解決やビジネス等にどう役立つかを理解出来るようになることを目的とする。
	25	データベース プログラミングB	金 13:35-15:05	メディア情報社会	柊 和佑	準備中
心理学	26	心理学史	金 13:35-15:05	心理学科	松井 孝雄	科学としての心理学はわざか1世紀あまりの歴史しかもたないが、その間に方法論・考え方の根本的転換や研究分野の多様化などを含めた激しい変遷を経てきている。それゆえ、心理学全体について幅広い見識を得るために心理学史の知識が必須であるといえる。本講義の目的は、単に歴史的経緯をなぞるだけではなく、現代の心理学を総合的に捉え、社会で必要とされる知識や技能につなげるための背景として心理学史を学ぶことにある。
	27	政治学概論	金 15:20-16:50	心理学科	福島 崇宏	今日の日本社会では、政治は日常生活とは無関係だと考えている人がたくさんいるようである。しかしながら政治は、私たちが商品を買うときに支払う消費税を始め、私たちの生活と密接に結びついている。本講義では消費税を始めとする税制や選挙制度、集団的自衛権の行使、医療保険制度、地球環境問題など、国内外の身近な政治問題を理解しつつ、一連の政治を動かしている権力構造に焦点を当てて講義を展開する。
	28	教育心理学	月 13:35-15:05	心理学科	川上 文人	主体性を持つ多様な人間と協働し、学び続ける態度を習得することを目的とする。教育心理学は、子どもを発達主体として理解し、その発達を促す教育的働きかけとはなにか、心理学的な視点から考える学問である。本講義では、発達や学習のメカニズム、教育環境と教育実践といった、教育心理学の基礎的な知識について理解を深める。実践的な方法論を習得することよりも基礎的な理解を身に着けることに重点を置く。
	29	世界の中の日本A (地理)	月 15:20-16:50	歴史地理学科	大塚 俊幸	系統地理学的アプローチにより、自然環境・環境問題、人口・都市問題、生活文化・経済活動といった地理的諸事象が世界でどのように展開されているかを学ぶとともに(豊かな教養)、それらの諸事象が発生している背景・要因について考える(専門的知識・技能)。また、他の国や地域との比較を通して、日本の自然環境や生活文化・経済活動などの特色を理解するとともに、世界の国々と日本との関わりについて考える(国際的な視野)。
歴史地理	30	日本の中世	木 11:15-12:45	歴史地理学科	水野 智之	日本の中世(11~16世紀)についての概説を行う。政治・社会の構造や主要人物に注目しつつ、中央の貴族・寺社が統治する体制から、武家政権が台頭していく動向を、古文書や古記録の読解を主軸としながら、説明する。あわせて、地域社会の動向にも配慮して、説明する。
	31	日本の近世	木 15:20-16:50	歴史地理学科	篠宮 雄二	豊臣政権から開国にいたる日本の近世史全般について概説し、日本近世社会についての知識を深めるとともに、近世社会の特質とその変質・解体過程を構造的に把握することを目指す。
	32	日本の近代	木 9:30~11:00	歴史地理学科	森田 朋子	近代日本の国際社会への進出について考察する。時期は維新政府の成立から日英同盟までを視野に入れる。日本をとりまく国際環境と日本の対応について基礎的な知識を身につける。
	33	アジアの歴史A	月 11:15-12:45	歴史地理学科	一谷 和郎	基本的には近代以前の東アジアを対象として、中国を中心にえた通史を概説する。受講生は本講義を通じて、古代以来日本を含めた東アジア地域に対して政治的、経済的、文化的に強い影響力を及ぼしてきた中国の歴史に関する基礎知識を獲得し、広くアジアの歴史に関する自分自身の解釈を表明できるようになる。
	34	ヨーロッパの歴史A	金 11:15-12:45	歴史地理学科	佐々井 真知	西洋の歴史を、西ヨーロッパを中心概観する。西洋の歴史の流れを理解し、特定の歴史的事件・事象に対するこれまでの歴史学の評価を理解し、その妥当性を考察する。身近な事象から歴史を考える。
	35	史料学	月 13:35-15:05	歴史地理学科	水野 智之	公式様文書・公家様文書・武家文書などといった各文書の様式、および古記録についての史料論的解説を行う。適宜、史料の所蔵機関や史料調査の方法についての解説も行う。
	36	地域と情報	月 11:15-12:45	歴史地理学科	安本 晋也	GIS(地理情報システム)とは、コンピューター上のデジタル地図を統括し、様々な地理学的な分析や情報発信を実現する情報システムのことを指す。現在、GISは地理学研究のみならず、都市計画・環境保全・防災・公衆衛生など様々な分野で活用されている。スマートフォンのアプリにおいても、GISが実装されていることが多い。本講ではGISソフトの操作を通じて、GISがどのように活用できるかについて実践形式で学ぶ。(注意)PCを用いた講義で、受講には基本的なPCスキルが望まれる。
	37	歴史学特殊講義A	月 11:15-12:45	歴史地理学科	水野 智之	南北朝期から織豊期の公武関係と国家の状況について、様々な視点から解説する。南北朝期の光厳天皇と足利直義の動向、観応の擾乱、国衙領のあり様、室町期の裁判、醍醐寺・三宝院と摂關家、室町・戦国期の摂關家・本願寺と将军・大名、織豊期の摂關家と武家の関係などを扱う。
	38	歴史学特殊講義B	水 11:15-12:45	歴史地理学科	森田 朋子	近代の外国人が日本の吉原を、どのように世界に紹介したのかを探る。1899年初版以来、版を重ねたThe nightless city; or, The "history of the Yoshiwara Yūkaku" by J. E. De Becker Project Gutenbergをテキストとして取り上げる。今なお欧米において吉原研究の古典として読まれるを利用しながら、明治の外国人が見た吉原像は、その註釈や多色の絵画資料などから、現代の私たちにとってわかりやすくなっている。なお、本文は英語史料であるが、基本的には翻訳ソフトラインナードの翻訳を利用するものとする。
	39	地理学特殊講義A	木 9:30~11:00	歴史地理学科	大塚 俊幸	